

令和 6 年度 教育 研究 発表 会

島根県教育センター、島根県教育センター浜田教育センターの共催で教育研究発表会を行いました。今年度は、〔第 1 部〕として 5 月 10 日～6 月 28 日に研究発表と研修報告をオンデマンド配信し、〔第 2 部〕として 5 月 18 日に講演をライブ配信（5 月 20 日～6 月 28 日にアーカイブ配信）で行いました。たくさんの方に視聴していただきました。ありがとうございました。配信の内容、講演への感想をご紹介します。

講演 「ウェルビーイングの実現と令和の日本型学校教育がめざすもの ～ICT 活用を手段に～」

講師 学校法人桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授 溝上 慎一 氏

1970 年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996 年京都大学助手、2000 年講師、2003 年京都大学准教授、2014 年教授を経て、2019 年学校法人桐蔭学園理事長。桐蔭横浜大学学長（2020～2021）。京都大学博士（教育学）。



指導主事共同研究	長期研修員研修報告
◇島根の子どもの資質・能力を育む授業づくり ～授業構想において大切にしたいポイントの検討～ 島根県教育センター企画・研修スタッフ ◇学びの変容を実現させる授業改善のための効果的な ICT 活用の推進 についての一考察 島根県教育センター研究・情報スタッフ ◇通常の学級における子どもたち一人一人の教育的ニーズに応えるために ～生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～ 島根県教育センター教育相談スタッフ ◇学校の自走をアシスト！自立した学習者を育てる校内支援プログラムの 作成 浜田教育センター研究・研修スタッフ ◇学校現場の「学級づくり」を支える教育センターの取組 ～スリンプル・プログラムのスムーズな導入に向けて～ 浜田教育センター教育相談スタッフ	◇子ども一人一人がいきいきと学びに向かう姿を目指して ～学級の担任がおこなう「読み書きのアセスメントや支援」に おいて大切にしたいこと～ 長期研修員（島セ）須貝 菜津子 ◇心をむける ～子どもたちのことをわかるために心にとどめたいこと～ 長期研修員（島セ）青木 リリ子 ◇幼小の架け橋期における感情に焦点化した一次的支援の充実 長期研修員（浜セ）太田 景子 ◇児童の適応行動を増やすためのチームで取り組む支援の在り方 長期研修員（浜セ）岡野 綾美

～いただいた感想から～

〔講演について〕

・講演をお聞きし、今求められている学校教育について整理することができました。主体的・対話的で深い学びをきちんと理解し、個別最適な学びや協働的な学びがどこまで必要なのかを考えつつ、現行の学習指導要領の確実な実施に向けて取り組んでいきたいと思います。また、ウェルビーイングの視点を持っていくことで、教科の学習を自己のキャリア形成と関連付けながら、生徒の主体的な学びを後押しできる可能性があると感じることができました。大変ありがとうございました。

〔指導主事の共同研究について〕

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」について知りたいと思っていたので、とても参考になりました。紹介していただいた「ぴったん個ラボ・OJT」や「充(10)実 NAVIGATION」を見たいと思います。

※「ぴったん個ラボ・OJT」「充(10)実 NAVIGATION」は島根県教育センターHPからご覧いただけます。

島根県教育センターHP ⇒ 調査・研究 ⇒ 研究成果物 ⇒ 浜田教育センター ⇒ 研究・研修スタッフ
「Well-being な生き方を目指して～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～」

ICT 活用が進む学校の特徴は？

GIGA スクール構想が始まり、この 4 月で 4 年目となりました。全国各地では ICT をとにかく使う段階から学びの変容を伴う授業改善の段階へと移行が進んでいます。一方で、地域間、学校間、教員間の活用状況の差が広がっています。皆さんの学校ではいかがでしょうか。

昨年度の研究・情報スタッフの指導主事研究では、先進的な取組が進む県外の学校や授業改善に果敢に挑む県内の学校を訪問し、それらの学校に共通する ICT 活用推進のための要素について考察しました。

GIGA スクール構想で整備された ICT 環境はクラウド活用を前提とした全く新たなものです。ICT の活用がそれぞれの学校に合った形で推進できるように、今回の成果を生かした取組を進めていきたいと考えています。研究の詳しい内容については、島根県教育センターホームページからご覧いただくことができます。